



第37回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬、医療機器、診断薬、健康食品、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイマジネーションを感じていただくことを目的としています。

このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話促進につながるものと期待しています。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：2023年**9月6日（水）** 14:00—16:00

※13:30 受付開始

※終了後、交流会がございます。

会場：グランフロント大阪北館 タワーC 8F

ナレッジキャピタルカンファレンスルーム C-05

<http://www.kc-space.jp/conference/items/towerC.pdf>

※オンライン配信はございません。

参加費：セミナー無料（交流会：1,000円）

主催：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議、公益財団法人都市活力研究所

共催：NPO法人バイオグリッドセンター関西

後援：関西医薬品協会、バイオコミュニティ関西 (BioCK)

講演 I 14:00-15:00

「組換え蛋白質の超高効率生産を実現する鶏卵バイオリクター」

産業技術総合研究所バイオメディカル研究部門・副研究部門長 大石 勲 氏

組換え蛋白質の超高効率生産を実現する鶏卵バイオリクター

組換え蛋白質はバイオ医薬品に加え、再生医療、診断など医療のさまざまな局面で用いられるが、高い生産コストが問題である。鶏卵は「物価の優等生」と呼ばれるほど安価に生産され、蛋白質に富むことから、組換え蛋白質の低コスト生産プラットフォームとして注目されてきた。私たちは世界に先駆けて、ニワトリ遺伝子組換えにより鶏卵に外来蛋白質の高発現（～0.5g/卵）を実現しており、技術概要や今後の展望などをご紹介します。

講演Ⅱ 15:00-16:00

「リンパ球動態を標的とした自己免疫疾患の新規治療法の開発に向けて」

大阪大学免疫学フロンティア研究センター 教授／大阪大学微生物病研究所 教授（兼任）／
大阪大学感染症総合研究教育拠点 教授（兼任） 鈴木 一博 氏

リンパ球の移動と配置は、病原体を排除するための免疫応答の誘導に必要不可欠であるばかりでなく、自己免疫疾患の病態においても重要な役割を果たしている。COMMD3/8 複合体は、我々によって同定されたケモカイン受容体のシグナル伝達分子であり、B リンパ球の移動と液性免疫応答の誘導を促進する。最近我々は、COMMD3/8 複合体が自己免疫疾患の病態の悪化に関わることを見出すとともに、抗炎症物質セラストロールが COMMD3/8 複合体を阻害することにより薬理作用を発揮することを突き止めた。本講演では、これらの知見に基づいて、COMMD3/8 複合体を標的とした自己免疫疾患の治療法開発の可能性について議論する。

申込先：参加希望者は2023年9月5日（火）までに、NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議のホームページからお申込みください。

URL：<https://kinkibio.com/informations/3498>



こちらからもお申込みいただけます

問合先：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（菅原、大嶋）
公益財団法人都市活力研究所 電話：06-6359-1322（西尾、味村）